こんにちは！ 印西市議会議員 ますだようこ

series2　vol.32

発行/増田葉子　2023.3.20　印西市内野2-1-6-202　TEL080-5082-0970　Fax0476-46-6809　e-mail/YFA49624@nifty.com
ホームページもご覧いただけます　http://www.masuda-yoko.com

2023年度予算～増えた固定資産税を何につかう？

新年度予算と印西市の財政状況

データセンターが建ち並び、「この十年間で固定資産税が40億円増えた」と市長があちこちで豪語しています。臨時収入ではなく、40億円のベースアップです。補正予算でも、年度当初に想定できなかった税収が毎年数億円増えます。2022年度最後の補正予算も「想定外」の固定資産税が８億円増え、新年度予算でも固定資産税は前年比で約18億円の増収です。

今まで通りの意識で、これまで通りの市政運営で「予算がない」はもう説得力がありません。増えた税収は、思い切って新しい市民サービスに使ってほしいものです。「いずれ人口減少するから」「人手が足りないから」などと、やらない理由を一生懸命に探す組織風土も換えてほしい。固定資産税は景気や人口減少の影響を受けづらく、この先もさらなる増収が見込め、安定した財源となります。

ちなみに固定資産税と義務的経費の推移をグラフにまとめてみました。義務的経費とは、人件費など必ず払わなければならない経費ですが、固定資産税収だけで軽くまかなってしまっている状況がわかります。

さて、新年度の予算はどうなっているでしょう。計上された事業はハード重視傾向でした。

【計上されたハード的事業】
- ・そうふけふれあいの里、高花小学校、本埜公民館の大規模改修工事
- ・旧永治小の改造工事と高齢者就労支援センターの移転工事
- ・ＵＲ跡地の複合施設、高花新学校給食センターの建設工事
- ・原小学校の校舎増築工事
- ・松山下総合体育館の天井改修工事
- ・市道10路線の舗装改良と新設工事
- ・災害用井戸（滝野中）、マンホールトイレの整備（原山中、印西中）工事

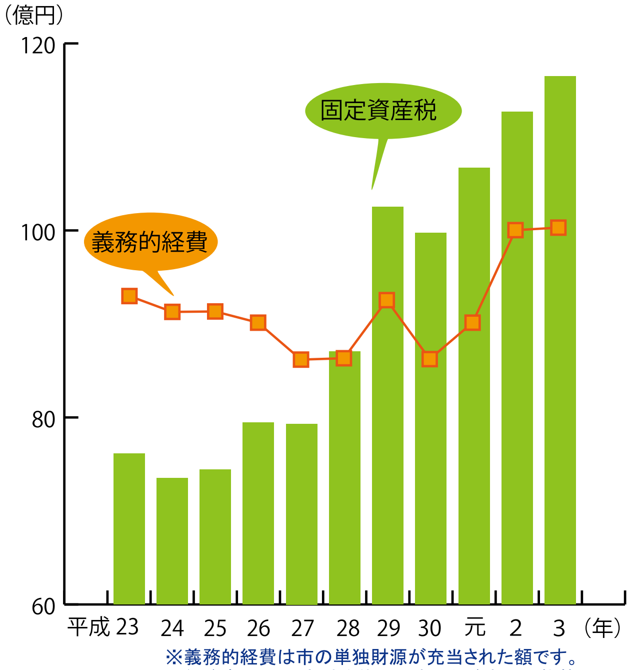
【新規のソフト的事業】
- ・耕作農家への燃料費支援助成（上限50万円）
- ・バス通学する小中学生の定期代無料化

増えた財源、私はこう使ってほしい

新年度予算は「意識転換」が感じられる内容ではありませんでした。私なら、例えば…。以下はどうでしょう。

- ・子どもたちの文化芸術活動を隣市のホールでやらなくてもいいように、人口に見合った文化ホールがニュータウン地区の駅近にほしい。
- ・図書館を増やして蔵書数を全国一にしたい。
- ・市の単独予算で少人数学級を実現してほしい。
- ・愛護動物の火葬・慰霊施設をつくり、命を尊重するまちにしてほしい。
- ・安心して年をとれるように、人が繋がれるコミュニティ施設を増やし、仕組みをつくってほしい……などなど。

心豊かで「誇れる印西市」にしていくために、皆さんの声をもとにこれからも提案を続けていきます。



※義務的経費は市の単独財源が充当された額です。
※総務省HPの地方財政状況調査関係資料から抜粋しました。

私の一般質問

一般質問とは、年４回の定例議会において、持ち時間30分以内で市政の取組み内容を確認したり、自分なりの政策提案を行ったりします。この任期４年間は、新型コロナ対策で一般質問が制限されることもありましたが、私は与えられた15回の機会すべてで質問をし、政策提案してきました。３月定例議会では、３つのテーマで質問をしました。そのうち２つを抜粋してご報告します。

印西市に「不適切保育」はないか

私の質問	担当部長の答弁
全国的に「不適切保育」の報道が相次いでいる。印西市も幼児教育・保育の場が急激に増加したが、「保育の質」は追いついているのか。状況はどうか？	不適切保育の報道を受け、国による「保育所等における虐待等の不適切な保育への対応等に関する実態調査」を書面にて実施した。
実態調査の結果はまとまったか。状況はどうだったか？	不適切保育が疑われる事案はある。事実確認等を行い、必要に応じて県へ状況を報告する。
県への報告は「必要に応じて」行うのか。不適切かどうかの判断基準はあるのか？	厚生労働省の「不適切保育の未然防止及び発生時の対応手引き」を参考にして判断している。
判断基準が「参考にして」「必要に応じて」だと担当によって異なることもあり得る。市の基準を明確にすることは保護者の安心につながる。監査の体制はどうなっているか？	小規模保育施設は年1回、保育園等は3年に1回実地による指導監査を行っている。実地指導は千葉県と連携して実施している。
市の監査体制はどう自己評価しているか？	県と連携し、計画的、効率的に実施できている
「効率的」であるよりも内容を深めてほしい。監査の人材は確保できているか？	指導監査は、保育課職員が２名で行っている。
担当課職員は異動もある。専門職である再任用のベテラン保育士に活躍してもらい、より専門性の高い監査チームをつくって、内容を深めてもらいたい。	指導監査は再任用職員の登用も可能である。

猫被害を減らす「地域猫活動」から動物愛護に発展させて

私の質問	担当部長の答
殺処分によらず野良猫を減らすために、飼い主のいない猫を「地域猫」として避妊去勢手術の助成をしているが、地域猫の最期はどうあるべきか？	猫は動物愛護法で守られる動物であり、飼い主がいない猫も「地域猫」として適切に扱われ、一代限りの命をまっとうできることが望ましいと考えている。
命をまっとうした後はどうなるのか？	活動する関係者によるとペット霊園などに依頼するか、印西クリーンセンターで焼却されているとのことだ。
動物用の火葬炉がある自治体もある。「地域猫」は、野良猫による生活被害を減らすことが政策目的ではあるが、殺処分ゼロの最期は生ごみという現実でいいのか。	やむを得ないことである。

【プロフィール】

1966年生まれ。東洋大学短大卒後、書籍編集の仕事に携わる。結婚を機に1989年から印西市民に。保育環境の充実や子育て支援を求めて市議会に関わり、2003年から印西市議会議員（現在４期目）。2017年、社会福祉士国家資格を取得、成年後見人の活動にも携わる。

【地域での活動】

保護司（保護観察処分の方の相談にあたっています）

民生児童委員（内野で身近な福祉の相談にあたっています）

社会福祉協議会NT中央南支部員（集いの場つくっています）

防犯指導員（定期的に地域を青パト巡回しています）

内野町内防災会事務局（自主防災会の運営を支援しています）